

表 1.4 主要魚介類の選定結果

①瀬戸内海における主な魚介類		②周年定住種	③漁獲量上位種	④保護水面对象種	⑤産卵場・生育場が藻場・干潟等特定域に該当する種	⑥選定結果	選定理由
魚類	イカナゴ	○		保護水面あり(対象種:水産動植物)			
	コノシロ	○					
	マコガレイ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
	イシガレイ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
	メイタガレイ	○	○				
	ヒラメ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
	タマガンゾウビラメ						
	イヌノシタ						
	クロダイ	○					
	マダイ	○	○		○	◎	生育場が砂浜性藻場に依存する。
	ヘダイ						
	イボダイ	○					
	スズキ	○	○		○	◎	生育場が砂浜性藻場に依存する。
	アカカマス		○				
	イサキ		○				
	シイラ		○				
	ニベ	○	○				
	シログチ	○	○				
	ベラ	○					
	カサゴ	○				○	
	メバル	○				○	
	アイナメ	○					
	トカゲエソ	○	○				
	マエソ		○				
	サワラ	○					
	マナガツオ						
	カタクチイワシ(シラス)		○				
	タチウオ		○				
	マサバ						
	マアジ		○				
	マルアジ						
	ブリ						
	マイワシ						
	ハモ						
	マアナゴ				○		
	ウナギ						
	ボラ						
	カワハギ						
	トラフグ	○	○				
	シロザメ		○				
アカエイ		○					
イカ・タコ類	マダコ	○	○				
	イイダコ	○	○				
	テナガダコ	○	○				
	コウイカ	○	○				
エビ・カニ類	スルメイカ		○				
	ガザミ	○	○	○	◎	生育場が干潟に依存する。	
	シヤコ	○					
	クルマエビ	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。	
貝類	アカエビ	○					
	キシエビ						
	ヨシエビ	○					
	アサリ	○	○	○	◎	産卵場・生育場が干潟に依存する。	
棘皮類	アカガイ	○					
	サルボウ	○		○			
	タイラギ	○					
	トリガイ	○					
	バカガイ	○		○			
	ハマグリ	○		○			
	マテガイ	○					
サザエ	○	○	○	◎	産卵場・生育場が岩礁性藻場に依存する。		
マナマコ	○						

①主な魚介類：以下の文献により抽出した。  
 「瀬戸内海の生物資源と環境（岡市ら，1996）」  
 「瀬戸内海のさかな（瀬戸内海水産開発協議会編，1997）」  
 「日本全国沿岸海洋誌（日本全国沿岸海洋研究部会編，1985）」  
 ②周年定住種：以下の文献を参考に判断した。  
 沿岸至近域における海洋生物の生態知見（魚類・イカタコ類編）（（財）海洋生物研究所，1991）  
 沿岸至近域における海洋生物の生態知見（貝類・甲殻類・ウニ類編）（（財）海洋生物研究所，1991）  
 新版魚類学（下）改訂版（落合明・田中克，1998）  
 水産生物の生活史と生態（（社）日本水産資源保護協会，1985）  
 水産生物の生活史と生態（続）（（社）日本水産資源保護協会，1986）  
 水生生物生態資料（（社）日本水産資源保護協会，1981）  
 水生生物生態資料（続）（（社）日本水産資源保護協会，1983）  
 ③漁獲量上位種：②の魚種のうち、「瀬戸内海区及び太平洋南区における漁業動向（平成7年～16年）中国四国農政局統計部」の漁獲量が50位以内の種。  
 ④保護水面对象種：水産資源保護法に基づく保護水面として指定された水域がある場合、その対象魚種。  
 ⑤産卵場・生育場が藻場・干潟・サンゴ礁の特定域に該当する種  
 魚介類の生態特性により、産卵場あるいは生育場のいずれかにおいて、砂浜性藻場、岩礁性藻場、干潟、サンゴ礁のいずれかを利用するものに○を付した。岩礁性藻場、岩礁域のいずれも利用するものは特定の場に依存するとはしていない。  
 ⑥選定結果：②～⑤全ての項目に該当する魚介類。

表 1.5(1) 主要魚介類 (9 種) の生態特性

■ : 分布域  
 □ : 分布域 (水深情報不足)

主要魚介類	卵形態	水深	産卵場	主な分布状態			幼稚仔魚の分布域 (底質環境)											
				卵	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラメ場	カジメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場	その他
スズキ	分離浮性卵	表層	岩礁域 (外海水の影響を受ける水深50~80m)	浮遊生活 (沿岸域)	浮遊生活 (沿岸域) (仔魚後期はアマモ場・河口域周辺に移動する)	底性生活					稚魚期 (体長12~60mmまで)							河川域: 稚魚期 (体長12~60mmまで)
		表層下~10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
		51m~																
マコガレイ	付着沈性卵	表層	沿岸域 (水深10~50mの砂泥・砂礫・岩礁)	海底塊状粘着	浮遊生活 (変態期まで) (水深10m前後)	底性生活 (30m以浅)			稚魚 (30m以浅)	稚魚 (30m以浅)	稚魚 (30m以浅)							
		表層下~10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
		51m~																
インガレイ	分離浮性卵	表層	内湾 (水深30m以浅の泥質域)	浮遊生活 (沿岸域)	浮遊生活から底性生活へ移行 (仔魚期変態期以降)	底性生活 (10m以浅の浅所)			稚魚期 (10m以浅の浅所)	稚魚期 (10m以浅の浅所)								
		表層下~10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
		51m~																
ヒラメ	分離浮性卵	表層	沿岸域 (水深20~50mの砂泥・砂礫・岩礁)	浮遊生活 (沿岸域)	浮遊生活 (変態期まで) (表層~中層20mに多く分布)	底性生活 (10m以浅)			稚魚 (10m以浅)									
		表層下~10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
		51m~																

出典: 沿岸至近域における海洋生物の生態知見 (魚類・イカタコ類編) ((財) 海洋生物研究所, 1991)  
 新版魚類学 (下) 改訂版 (落合明・田中克, 1998)  
 水産生物の生活史と生態 ((社) 日本水産資源保護協会, 1985)  
 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集整理 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書: 水産庁, 2006)



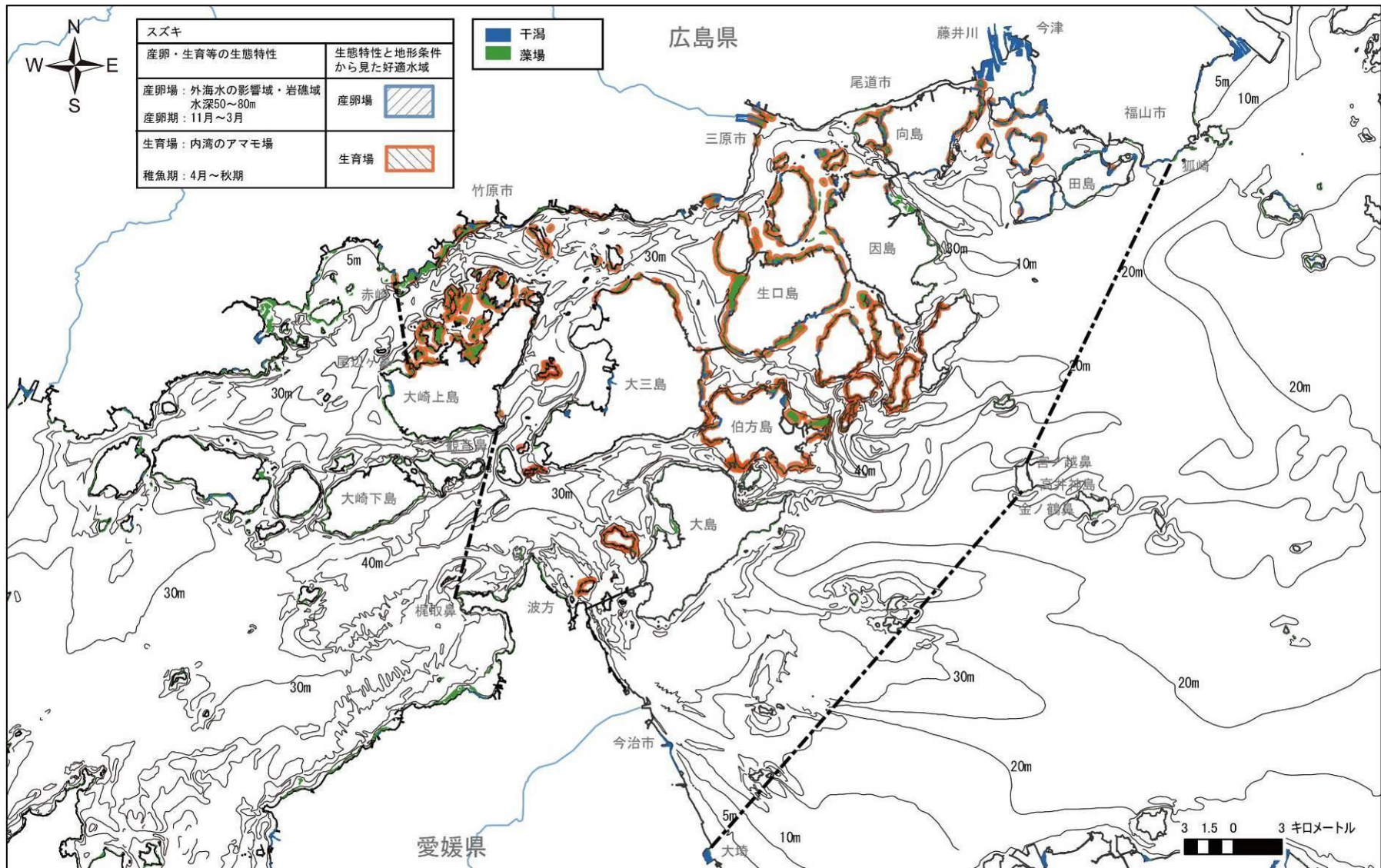


図 1.9(1) スズキの生態特性・海域の地理条件・水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）



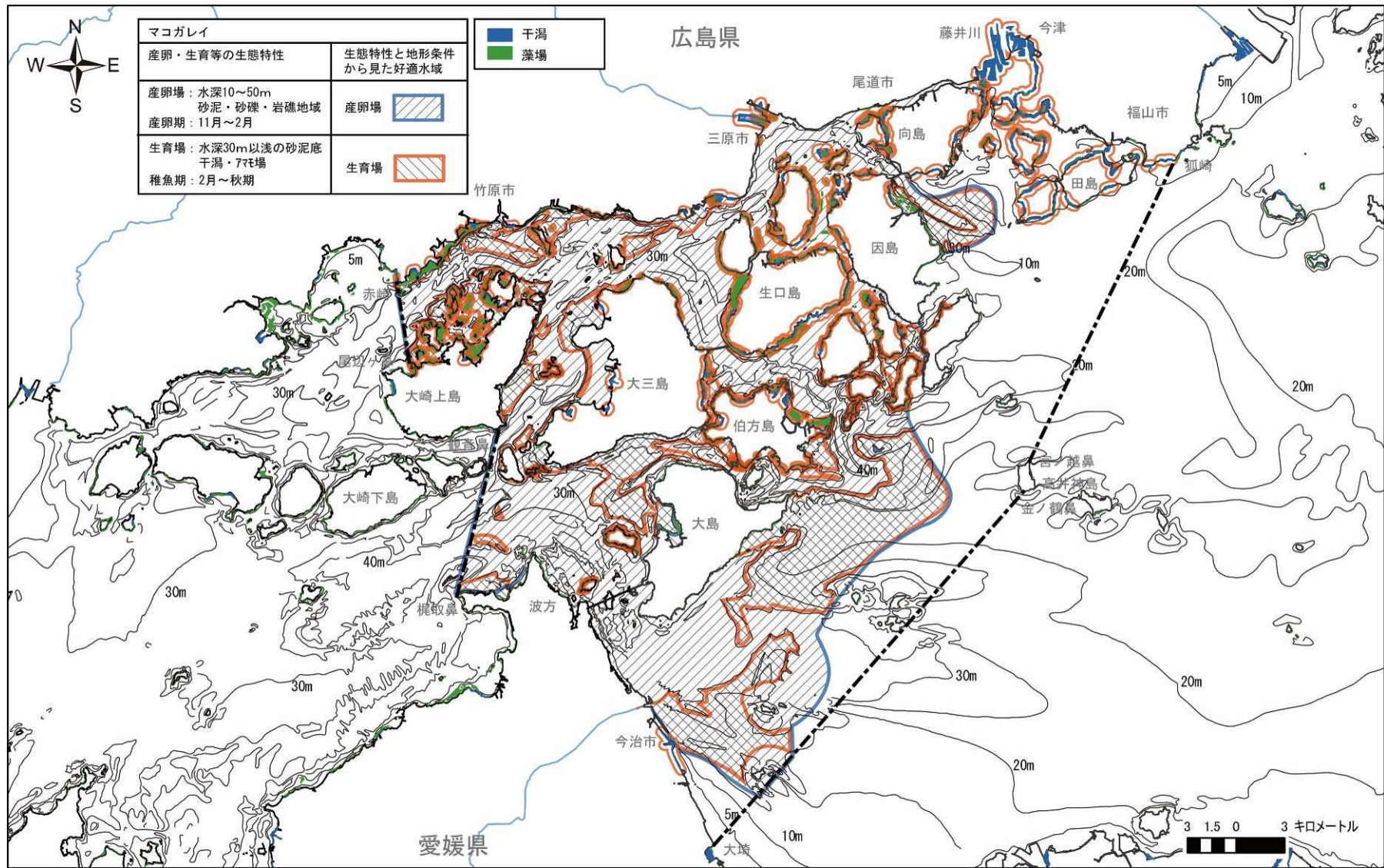


図 1.9(2) マコガレイの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）



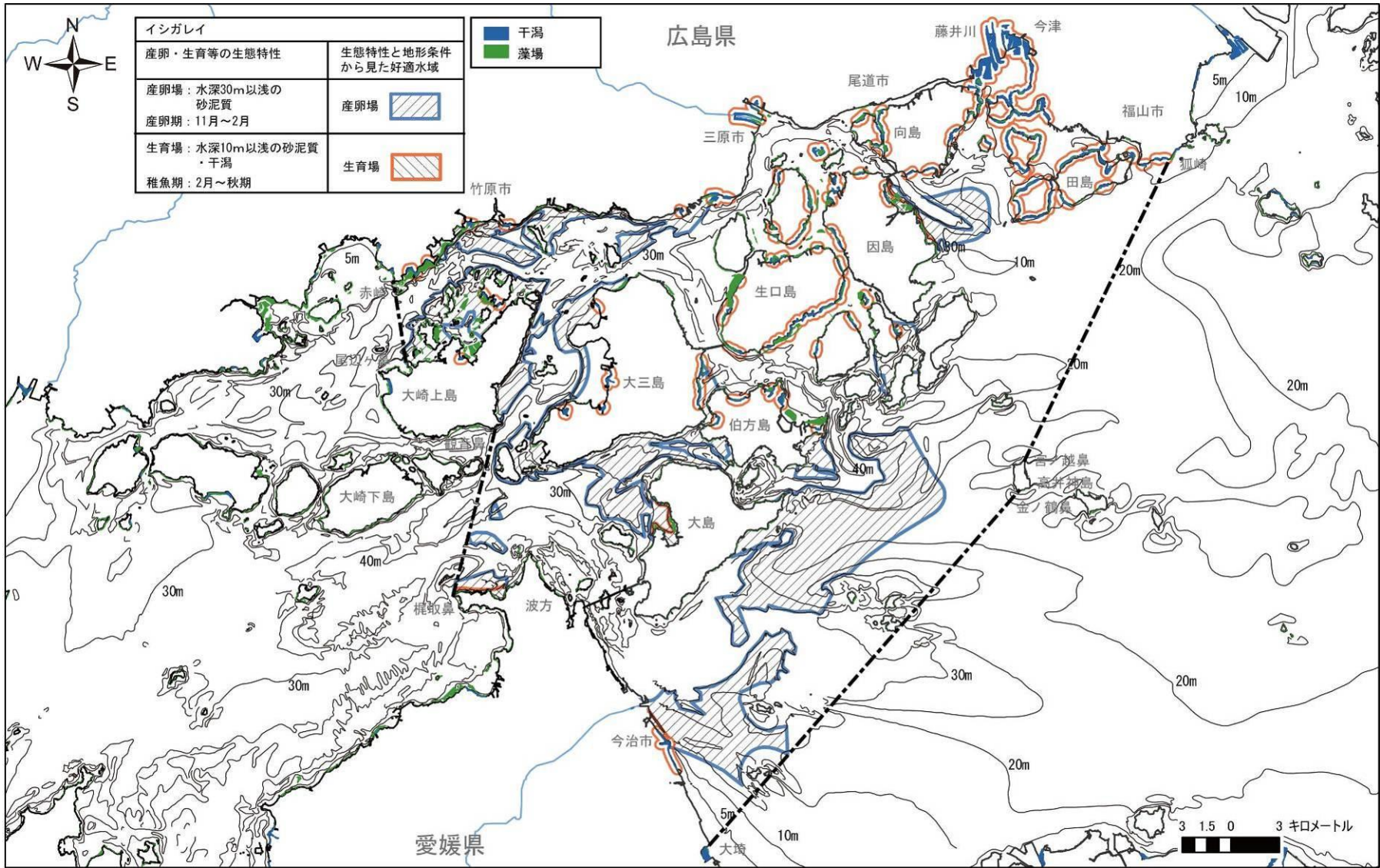


図 1.9(3) イシガレイの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）



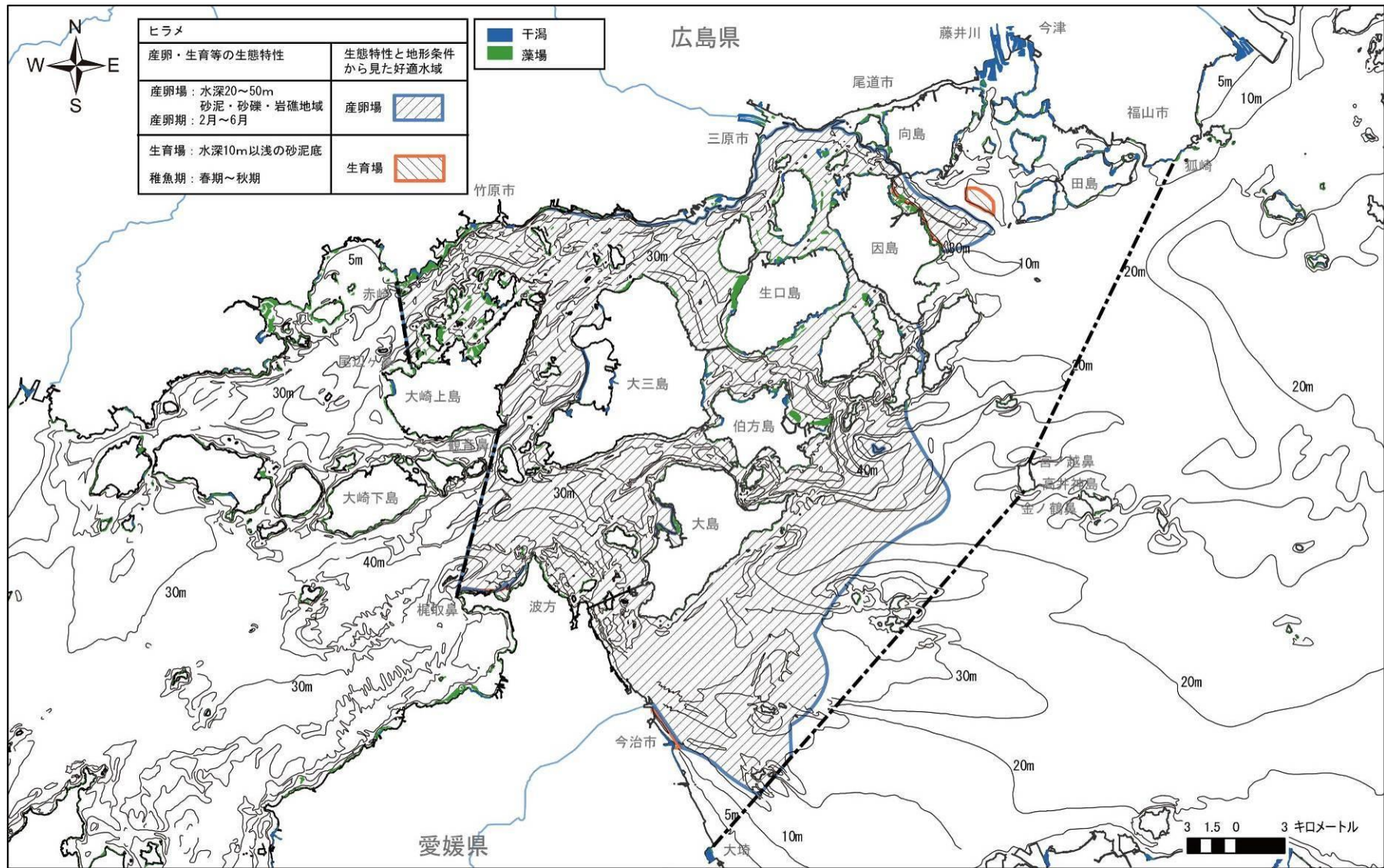


図 1.9(4) ヒラメの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）

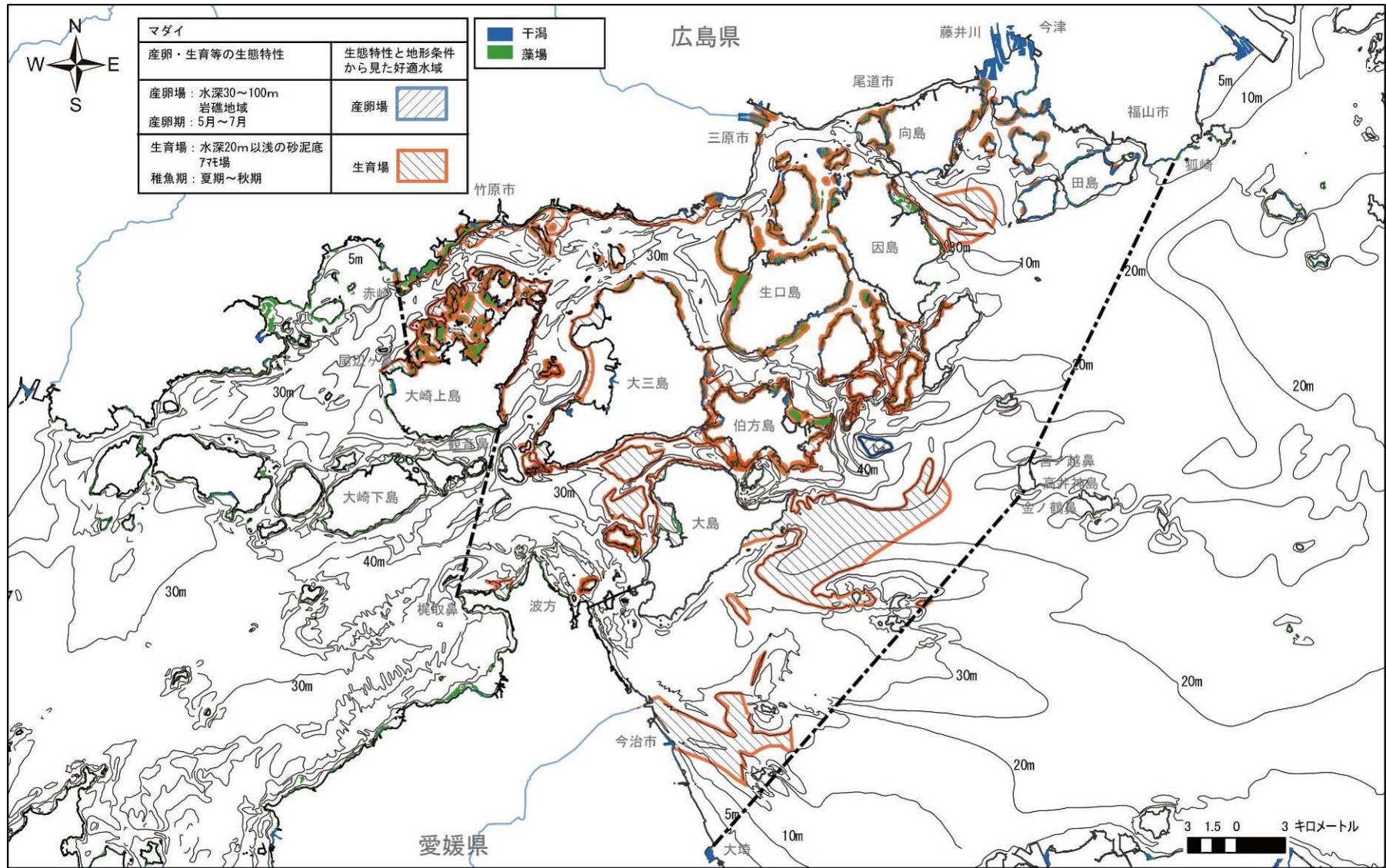


図 1.9(5) マダイの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）



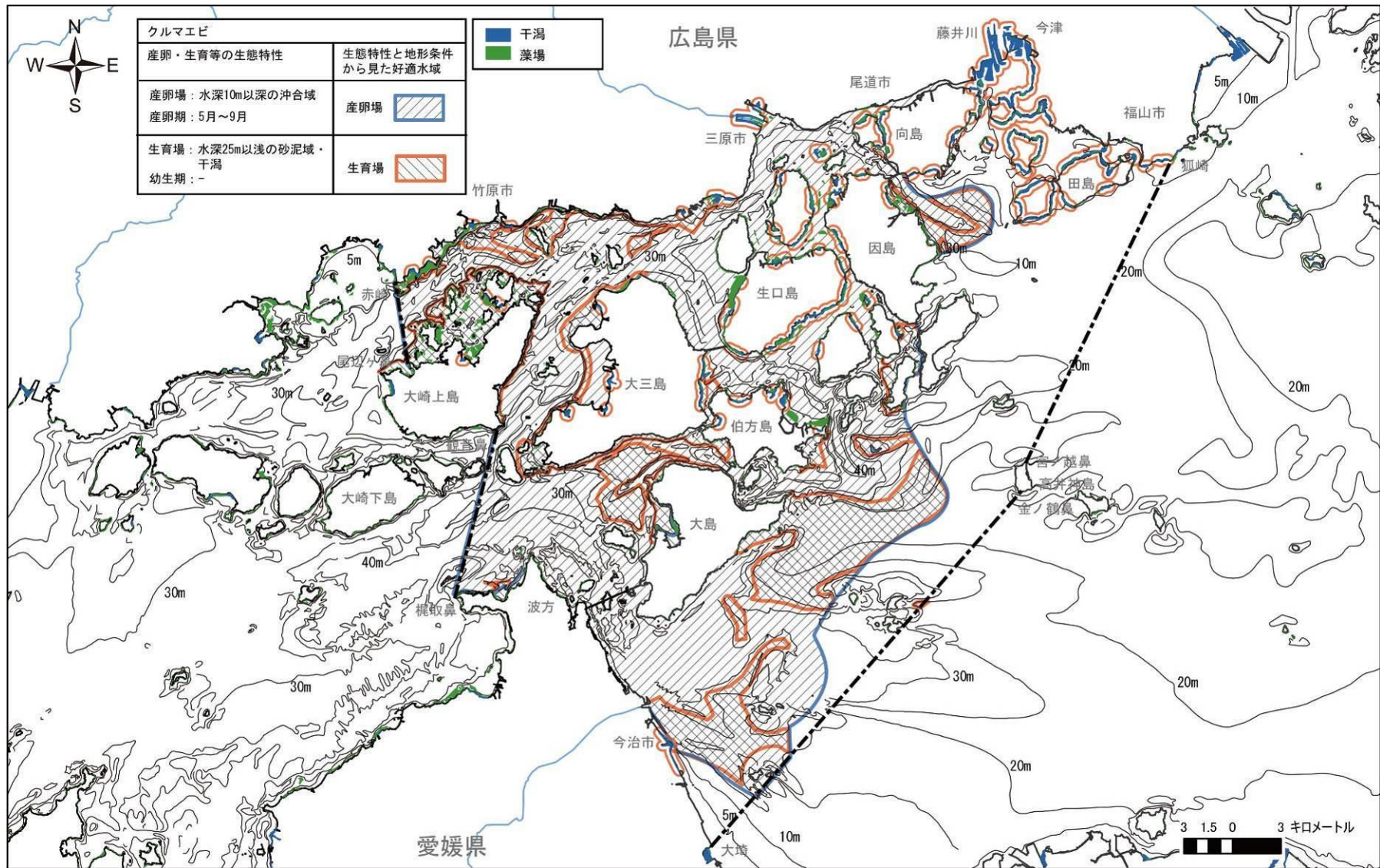


図 1.9(6) クルマエビの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）

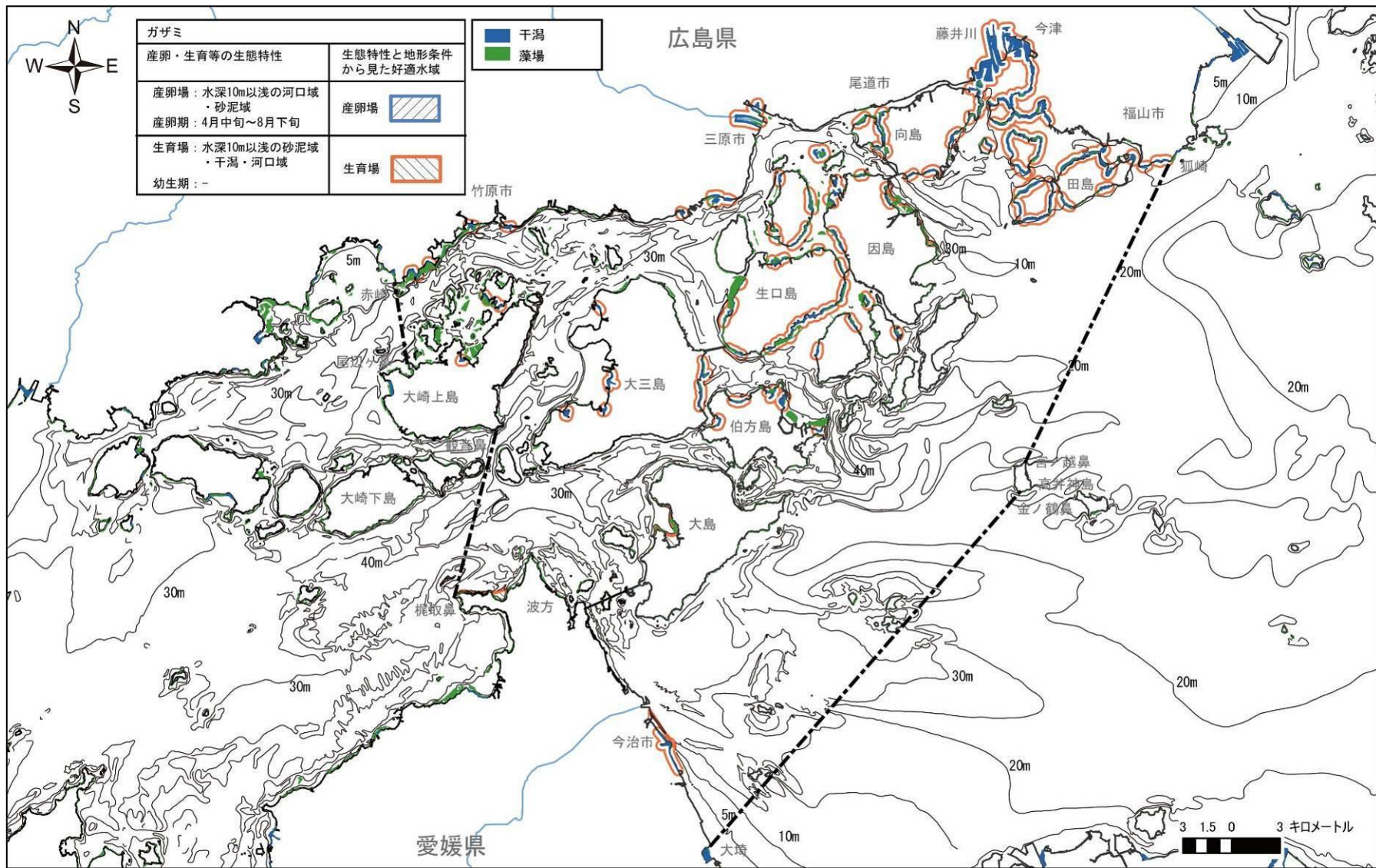


図 1.9(7) ガザミの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）



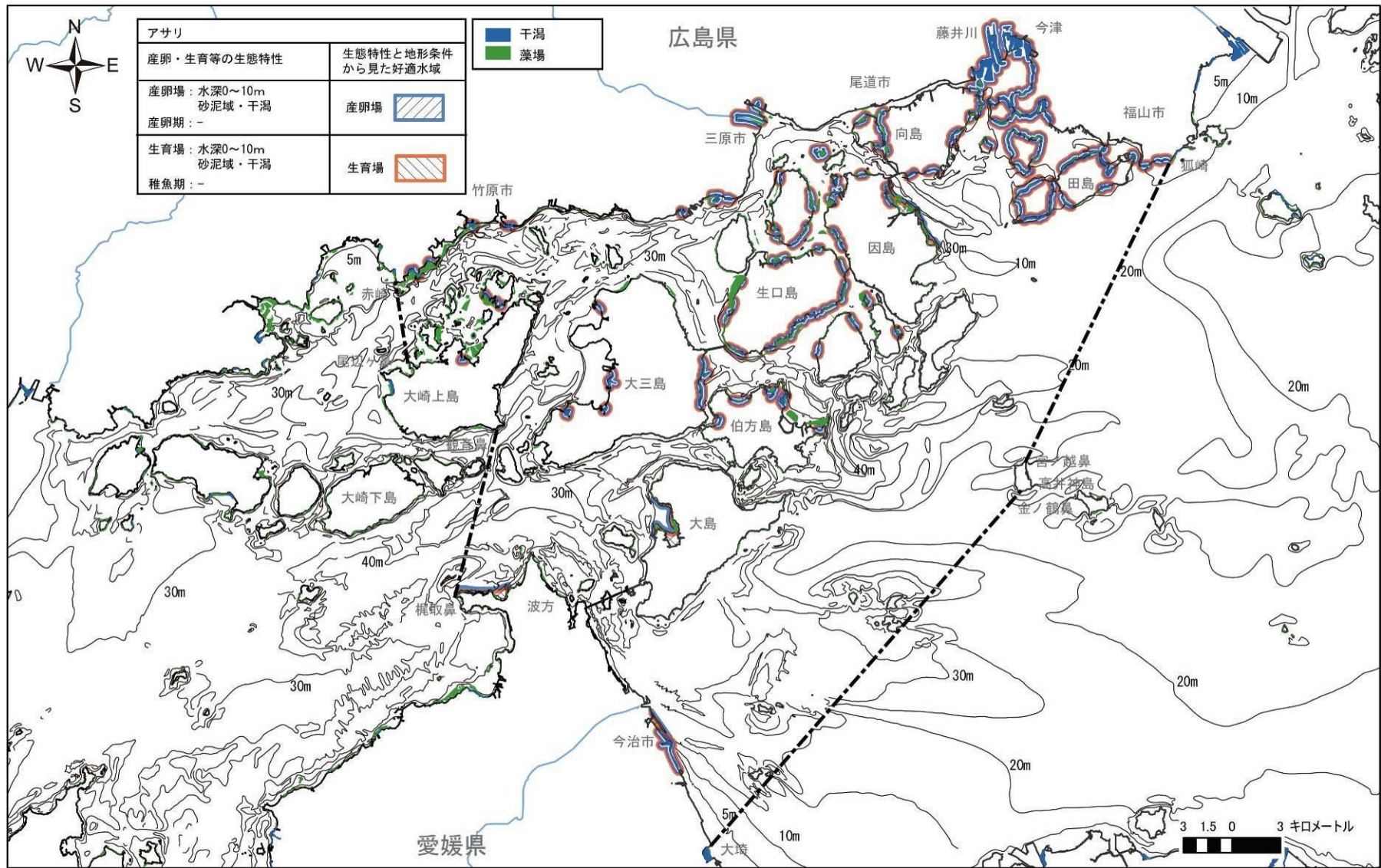


図 1.9(8) アサリの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）



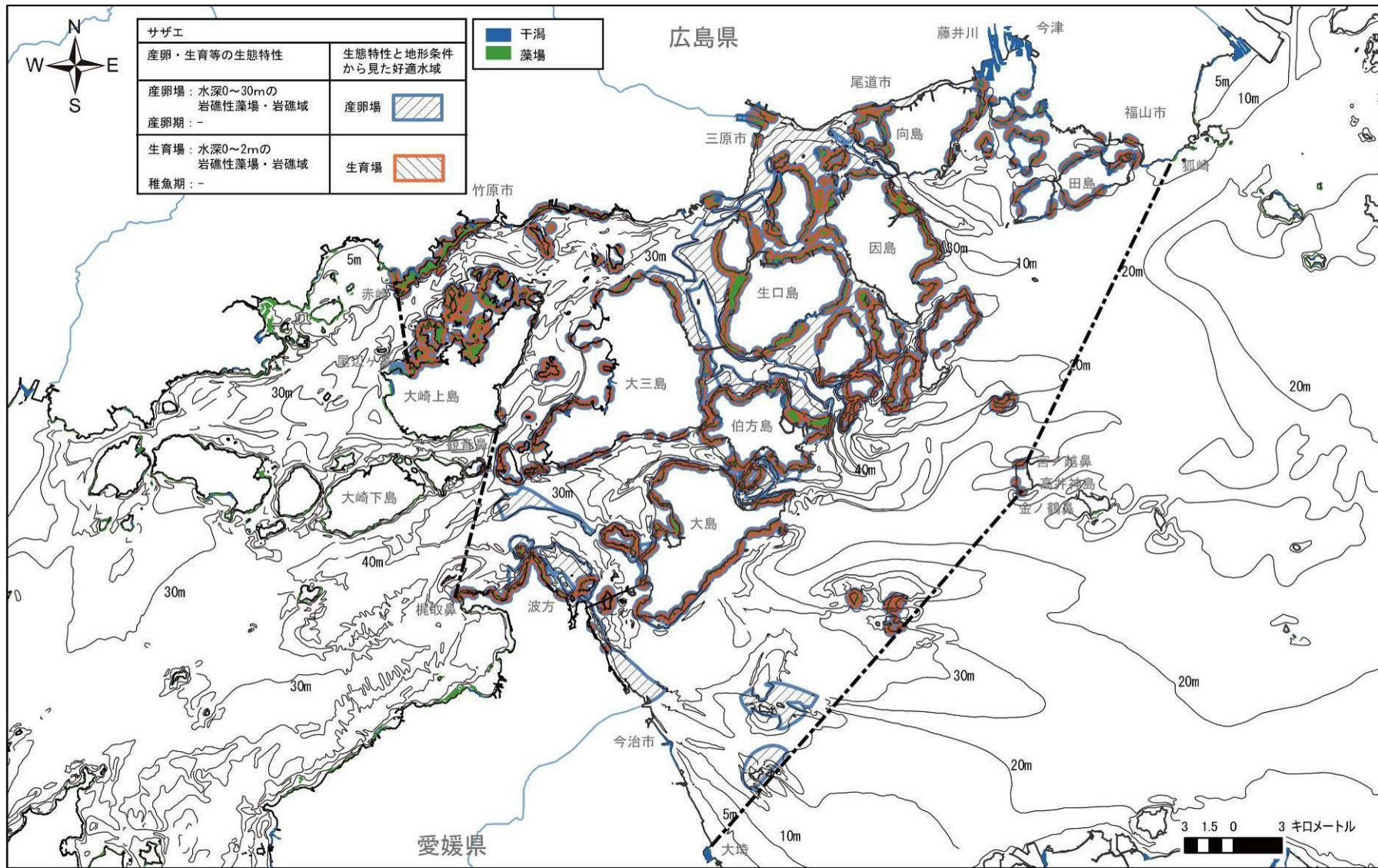


図 1.9(9) サザエの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）